

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には管理者が、オリエンテーションで理念の思いや意味を職員に伝えていきます。職員室に絶えず掲示しており、理念を共有し実践しています。毎年部署目標を立てて達成に向けて努力をしています。	法人の基本理念を基に、その人らしい生活の継続が出来るよう、事業所の理念を作成している。今年度は「自分が入りたい事業所を目指す」と言う目標を掲げ、日々の支援を通して達成に向け、取り組んでいる。新人についてはオリエンテーション時に、また中途採用の方についても、会議の中で共に理念について学ぶ機会を持ち、職員は日々の業務の中、理念を意識しながら利用者への支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、当施設の納涼祭や地域の秋祭りへ参加を地域の方からお声掛け頂き、お誘いを受けておりました。コロナ禍と言うこともあり、ここ2年は行っておりません。	開設時より、お祭り等の行事が盛んな地域でもあり、日常的に交流が図られていた。しかしコロナ過の中、従来の様な交流が出来なく、事業所として、模索しながら出来ることへの工夫を行っている。ブログの発信や、お便りの配布等、紙面は表情が良く見えるように工夫したり、配布については手渡しで顔が見える関係を大切にしながら、今出来ることへの努力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生・専門学校生の体験実習・ボランティアの受け入れを積極的に行っていましたが、コロナ禍ということもあり、ここ2年は行っておりません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	年間計画を立て奇数月に実施しております。ホームでの状況・事故報告・苦情などを報告し、意見交換を行っています。また、火災防火訓練にも参加して頂き助言を頂いております。	会議は奇数月に開催されており、会議録も整理されている。民生委員、地区長、包括支援センター職員、家族代表、事業所職員等で構成され、事業所からの報告を行い、助言や意見を頂いている。ご家族については会議後に書面にて内容を伝えている。意見は参加された家族代表より伺い、事業や処遇に反映させている。広く家族や地域の声や意見を拾いながら、サービスの向上に活かしている。	会議は報告や情報交換に留まらず、活発に意見交換がされている。しかしコロナ過の中だからこそ出来ることやその気付に期待したい。会議に参加されるメンバーの在り方や、ご家族、地域の声を広く、丁寧に拾う努力、出された意見をフィードバックしながら、交流が持てない中をどの様に工夫して行くのか、事業所側からの発信や繋がりを持ち方に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて参加頂き、情報交換を行っております。制度上の疑問など伺いながら取り組んでおります。	市町村との連携は地域包括支援センターを通して行い、運営推進会議の中で意見をいただきながらいつでも相談が出来る関係性を築いてる。対応困難事例や、入所に関しての相談は無かったが不明なことは何時でも聞けるよう、積極的に事業所から発信しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティングで等でも身体拘束に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	高齢者虐待、身体拘束委員会があり、委員を中心に、法人全体で、また事業所にて勉強会を通して学んでいる。不適切ケア報告書を作成し、「自分に置き換えて、相手の立場に立って」無記名にて事例をポストに入れることで気づきや改善を図る機会としている。出された意見は職員会議にて報告、対策を講じ、改善策を会議録に残し、全職員で確認しながら身体拘束をしないケアに繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティングで等でも虐待に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	高齢者虐待、身体拘束委員会の委員を中心に、法人や事業所全体で勉強会を通して虐待について学ぶ機会を持ち、防止への取り組みを行っている。虐待マニュアルや、発見時のフローチャート、発見報告書、チェックリスト等、発生時の対応に関する基本方針を定め、不適切ケアが無いかを確認しながら全職員で虐待防止に向けての取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しているお客様が1名いらっしゃいます。行政手続き(介護更新など)は代行申請をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、ご説明し納得の上、同意をいただいております。また、書面にてご署名を頂いております。また、ご不明な点はないか、また、ご理解頂いているか再度お尋ねしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の受持ち職員が、お客様の声を聞いて実現につなげるよう努力しています。また、年1回お客様と家族に顧客満足度の調査を行ない、言いにくいことでも書いていただくことで課題として改善していく機会を作っています。	年に一度、顧客満足度調査を行い、利用者、家族の意見を聞く機会を設け、出された意見は見える所に掲示し家族にはお返しをしている。またケアプランの更新時には電話にて要望はあるか、意見はないか等、丁寧に聞くようにしている。今のところ、苦情等は上がって来っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の部署会議、職員会議等で、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、業務改善を上げ職員の意見を業務に反映しています。	毎月の部署会議の中で意見、要望として聞いている。6月に全職員と施設長との面談を行い、個別の話し合いを通して、目標管理についても話し合いが行われ、職員として自己成長の良い機会となっている。出された意見は必要に応じて議論を重ねる等、事業所運営に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、目標管理を軸に、自分の立てたやりがいのある目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように職員個別に指導しています。また、定時退社日を設ける等努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会があり、モチベーションが上がるように、学ぶことを常に推進しています。新入職員のフォローアップ制度や、グループ内、法人内の研修制度もあり、職員育成に力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のGH連絡会があり、定期的に交流の機会を持っています。法人内の連絡会(2ヶ月に1回、11ホーム参加)では、サービスの向上を目指して現状報告や意見交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様やご家族の思いを受け止め、安心して頂けるように、利用前にご本人にお会いして直接話をお聞きしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ってお話を聴き状況を把握し、対応に努めております。遠方の家族でも電話にて連絡を取り家族の想いをお聴きしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、家族、担当ケアマネから本人の状態をお聞きし、本人にお会いして、想いや状態を確認しながらサービス導入に努めています。入居に至らなかったケースもあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の残存能力・体力を考慮した上で、出来ること、役割を探しながら支援しております。また、その方の希望が叶うよう、対話を大切にしたり関わりや、お客様の気持ちを理解した関わりを心掛けております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお手紙などで、日々の様子をお伝えし、情報の共有に努めています。	日々の様子は電話にてお伝えしている。また毎月お手紙をご家族に出される利用者も居られる。受診についてはご家族の協力をいただく方も居られる。タブレット端末を使用して、顔が見える関係を繋ぎ、生きて行く喜びが感じられるよう、共に支え合う関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということもあり、地域の行事に参加したり、御面会や外出、外泊等、大切な方と会う機会は減っています。関係が途切れないようにFaceTimeや電話での面会などで大切な方と会う機会を作り、関係が途切れないように務めております。	外出が思う様に出来ない中、関係性が途切れないようタブレット端末にて、会話の機会を多く持つよう努めている。また受診の帰りに自宅近くまで行き、お墓参りの希望を遠くからでも叶えるよう、工夫することもあった。日々工夫しながら馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の友好関係の確立されている所を大切に、居場所の配慮、食事作りなど共に出来るように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後についてご家族が不安を感じた時や入院された時など、病院などの話し合いに同席し、患者サポートセンターなどを通じて支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを持ちながら本人の想いの把握に努めています。困難な場合は、チームで支援できる様、カンファレンスシートでご家族の意向も踏まえ検討しております。	日々の支援を通して聞くように努めている。またご家族に対してはケアプランの更新時に思いを聞いている。施設生活になじめない方、不安の多い方に対しては、入所前の事業所に聞いたり、ケアマネージャーに聞くなど、安心して生活が送れるよう個々の利用者の思いや声を大切に支援している。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問で情報情報を得たり、ご本人やご家族の意向もセンター方式シートを活用して情報を得ています。その情報を基に、本人の思いや、ご家族の想いを大切にし関わりた関わりを目指しています。	入所時のセンター方式のアセスメントシートを用い、生活歴や暮らしぶりをの情報を得ながら、これまでの暮らしの把握に努めている。住まいが入れ替わっても以前と変わらない生活が送れるよう、本人、ご家族に聞きながら、本人の望む生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を全職員が把握して、ご本人が出来る事を大切にし、役割を持って頂けるようミーティングで検討し、本人が安心して過ごしていただけるように心掛けています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的モニタリングやアセスメントで、気づき、ご意向からカンファレンスを行い、活発な意見交換を行っています。ご本人やご家族のご意向も大切に介護計画を作成しております。	本人・家族への事前の面接や必要な関係者との話し合い、入所可能の判断をし、暫定プランを作成している。その後1ヶ月でプランの見直し、日々の生活の中でモニタリングを行っている。コロナ禍の現在、本人参加で職員ができるだけ参加検討し、6ヶ月で定期的な見直しを継続し、家族の意向や希望等電話にて確認し、封書での返事を貰い記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のちょっとした変化を個々の生活記録に残す様努力しています。少しでもいつもの状態と違いのある時は、ミーティングで話し合い、カンファレンスに繋げ介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院等支援をしています。食事提供の方法等、個別支援させていただいております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防へ働き掛けを行ったり、運営推進会議には地域の方に委員になっていただき連携を図っております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居時に同意と納得を頂いてからかかりつけ医の変更を行っております。ホームでの様子を詳しくお伝えし、往診など適切な医療を受けられるように支援しています。	二つの地域医療機関との協力関係があり、連携し、往診を利用している利用者也居られる。家族対応での受診では「受診連絡表」で、医師とのやり取りや薬の変更等、記録に残るよう配慮されている。緊急時は同じ建物の中にあるデイサービスの看護師による医師との連携や相談等、日中の支援体制が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調チェック表にバイタル測定値や特記事項を記入し、看護職に定期的にチェックしてもらいながら日常的な連携に努めています。事故や異常時は速やかに相談し、早期に医療機関につなげられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会もできない為、入院した場合は患者サポートセンターのケースワーカーや、病棟の看護師と連携をとって本人の状態を確認しています。退院時の食事指導等も受けています。また、家族とも連絡を密にとり、退院への支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度3になると、特養への申し込みについてお話をさせていただきます。ご本人の状態も考え十分に方向性を話し合った上で、事業所でできる精一杯の支援をさせて頂いております。	入所時の説明では、重度化や終末支援に関して、医療の夜間時往診などの協力関係が難しいなどの説明とともに、事業所でできるケアについて、出来るだけ詳しく説明している。現在終末期の対応は行っておらず、住み替えなどへ説明とともに、丁寧をお願いをしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命法の講習を受け基本を学んでおります。施設内や、ホーム内の勉強会で訓練を行ない、対応を身につけるようにしています。また、AEDの操作方法も学んでいます。	毎年消防署に依頼し、AEDの使用法などの講習会を行っていたが、今年は、職場の中で学び合い対応している。事故発生時の連絡訓練やフローチャート・マニュアルなどを設定し、利用者の急変や事故発生に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災チェックを行ない、災害時に備えています。年に1回の総合防災訓練では、地域の消防団の方、住民の方にも参加して頂いております。コロナ禍と言うこともあり、ここ2年は消防団は参加しておりません。	防災委員会があり、定期的に防災設備を点検し、備蓄食品は、ローリングストックとし、2ヶ月に1回点検管理している。5月の職員会議では、「土砂災害」について勉強している。コロナ後には、今迄のように地域の消防団との関係性を大切にし、以前のように事業所の避難訓練に参加いただく等、協力関係を継続したいと願っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを意識しています。不必要に大きな声での会話や、カーテンや扉の開閉に配慮する等、プライバシーにも配慮した対応を心がけています。	マニュアルの整備が行われ、プライバシー保護や個人情報保護についての研修が行われている。職員行動指針である「こやまケア」の「実践評価表」の中にあるプライバシー項目を年2回チェックし、職員は日々の対応や声掛けに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけて、思いや希望を言いやすいように努力をしています。特に、食べ物のご希望はお客様から出やすく、好きな飲み物やお茶菓子の希望は沢山聞いています。聞き出した希望を叶える企画立ても行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聴き取り少しでも希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などの選択など、その人らしくいられるようにご本人にもお聞きしながら配慮しています。また、必要に応じて介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のしごしらえや、味見、食器洗い、食器拭きなど、声をかけながら行なっています。率先して行なって下さる方もいらっしゃいます	食事の下ごしらえや皮むき等一人では難しくなった利用者に対し、手を添える等でテーブルと一緒に拭くなど、個々できることや楽しみが生かせるよう支援している。またコロナ禍の現在、なかなか難しい外出や外食の日常の中で、リクエスト献立、父の日献立やお茶会メニュー等々、気分転換ができるように、また楽しみが持てるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事では、一人ひとりに合った量や食形態の検討をしながら提供しています。水分量の少ない方には、ご本人の好まれる物を提供しています。また、体調の変化もしっかりと記録し、医療につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきやうがいをお客様がご自身で出来る様に声を掛けたり、見守りながら行なっています。磨き残しの有方には介助毎食後清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に定期的なトイレ誘導、排泄チェックを行なっています。排泄パターンをとり、サインを見逃さず、失禁を減らすために、トイレでの排泄を促しています。	「生活リズムパターンシート」で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援とともに、その利用者に合わせ、誘導や見守りなどの支援方法を工夫しながら実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便となるように、水分補給を多めにしたり、毎日の体操、散歩等で体を動かしたり、便秘予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添える努力と体温や血圧が安定されている時間帯に入浴していただけるようにしています。	入浴は個浴を基本として、一人一人の要望などを伺いながら行っている。入浴時は職員と1対1になり、さり気ない会話の楽しみの時間になったり、ゆずや菖蒲等季節を感じ、楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間眠れる様に関わっています。本人の就寝時間に合わせ休んで頂いています。居間には長座布団や布団を置き休息しやすい環境を作り、安心感、居心地の支援をしています。お客様の状態や希望に応じて居室で昼寝ができるよう、支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、担当者を決め、他の職員と確認しながら服薬をおこなっております。薬の開始、中止など変更がある場合は、理由を明確に記録して周知。医師や看護との連携を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯、買い物など一人ひとりの得意なこと、出来ることを活かして役割を持っていただき、職員も共に楽しみながら支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍と言うこともあり、感染予防の為に 行っておりません。	以前は、日常的に散歩や買い物のための外出が行われていた。コロナ禍ということもあり、医療受診以外での外出は少ない毎日である。事業所内の自販機にお菓子を入れてもらい、出てくるようにして、そこから買い物ができるように工夫したり、希望により、お寿司の出前を取ったり、週1回パン屋さんが事業所前まで来てくれるなど、外出等が厳しい状況の中でも、日常が楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、ご本人とご家族の意向を確認しています。事業所としては基本的にお金はお預かりしていません。ご本人が所持されている方は、使用時にに関わり、支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様自ら電話を掛けたいと仰る方はご本人の体調に配慮し支援しています。電話がかかってこられた時には、やり取りが出来るように支援しています。コロナ禍ということもあり面会制限をさせて頂いております。FaceTimeでの面会も行っております。家族やお知り合いとの文通も支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは、毎月季節感を感じられるような装飾を行っています。また、テレビの配置も過ごしやすいうように、お客様と相談し共有空間で楽しめる工夫をしています。	外出の機会が少ない現在、フロアの飾りつけや写真や絵には、夕焼けや十日町の自然、季節の花など選び、事業所の目の前に広がる自然とともに過ごしているような雰囲気大切にできるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席などで気の合ったお客様同士お話をされて過ごされていらっしゃいます。天気の良い日には日の当たる場所でお茶のみ、日向ぼっこをし、外を眺めながら落ち着いて過ごせるように配慮しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には家族写真など持ち込んで頂いております。馴染みのあるものを持ち込んで頂けるよう声もかけさせて頂いています。自作の作品を飾ったりしています。	居室には、自ら書いた名前の表札を掲げ、これまでの生活での馴染みの品々を持ち込んでもらい、身の回りに置いてもらったり飾ったりして気分よく暮らせるよう支援している。今年は季節の衣類整理などは、家族に確認しながら、本人と担当職員が行い、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室環境や使用器具など、PTと連携を図り環境評価や器具などの選定を相談して安全な環境づくりに努めています。		